

駿建 2013 Apr. Vol.41 No.1

日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科

SHUNKEN

Quarterly Journal of

*Department of Architecture, College of Science and Technology, Nihon University
& Department of Architecture and Living Design, Nihon University Junior College*

Let's take a walk from Surugadai

[SPECIAL FEATURE]

駿河台から歩いてみよう

今を考え未来を創る

みんなの設計 みんなの研究

● 東京ドーム

● 東京ドーム
ホテル

「本郷」

トーキョー
ワンダーサイト
本郷東京都水道歴史館
05

Special Feature

駿河台から歩いてみよう

● 東京都立
工芸高校

順天堂大学

JR水道橋駅

神田川

かえて通り

建築学科2年生からのメインとなるのが、「千代田区神田駿河台」の街中に建つ駿河台キャンパス。2年生から学部卒業までの3年間。さらに大学院へ進学する人であれば、5年間を過ごすことになります。

「神田駿河台」というエリアは、東京の中心皇居から、わずか2キロ弱にあり、江戸時代から今に至るまで、さまざまな表情を見せながら、変化し続けているエリアです。そんな東京のど真ん中で、建築の勉強ができる大学は、きっと他にはないでしょう。

今号の特集では、駿河台キャンパスを中心に約1.5kmの範囲（徒歩15分圏内）にある街の見どころを集めて見ました。周辺の各エリアには、ショップやカフェなどから神社に至るまで、さまざまな見どころが満載。しかし、今回のページ数では、とても伝えられません。この地図の余白部分には、おもしろい場所が、まだまだたくさん隠されているはず。まずはこのマップを片手に街を歩いてみてください。そして、あなたが見つけたおもしろいものを友達と共有。すると、学生生活が何倍も充実するはず。そして、そんな街歩きが、自然と建築を学ぶことにもつながっていくことでしょう。

● 日本大学
法学部

アテネフランセ●

築地堀
築地堀

旧猿楽町交番

カトリック
神田教会 06

「猿楽町」

文化学院

とちの木通り

明治大学

近江兄弟
社ビル

06

明大通り

山の上
ホテル明治大学
博物館 02

明治大学

ヴィレッジ
ヴァンガード
お茶の水店うどん
丸香 02

漢陽楼 04

サラファン 05

エチオピア 02

三省堂書店 03

小川町
郵便局

太田姫神

12

かげろう
文庫お茶の水
ホテル昇

07

ジャニス

三陽堂書店 10

13

神保町シアター
神保町花月*靖国通り沿いは、
スポーツショップが立ち並ぶ

このエリアは別名「神田古書店街」。周辺には、岩波書店や小学館などの大手出版社、印刷所、一般書店の他に、日本大学（法学部）、明治大学など大学施設もあり、これらと一体となって本の町が形づくられている。また、奇跡的に空襲を免れたため、風情のある建物が連なっている。1880年代に法律関連の大学や専門学校が、相次いで創設されたことをきっかけに、それらの学生たちを当て込んだ古書店が次々とできていった。つまりもう130年も歴史があるというわけだ。その後、大学の学部の多様化に合わせて、文学・哲学・社会科学・演劇・自然科学・洋書・文庫本と、さまざまなジャンルの専門書店が増えていった。だから、もちろん建築やデザイン専門の古書店もある！本屋さんの総数は約180軒、そのうち古書店が約110軒で、都内の古書店の1／3がこの地域に集約しているのだそう。毎年、秋に行われる「神田古本まつり」にも足を運んでみよう。

● 共立女子
短期大学学生会館
05竹尾
見本帖本店 14旧電機
大学跡● 神田
警察署

千代田通り

*皇居の周りは、ジョギングのメッカ
ロッカーとシャワーを借りられる
ランニングステーションを活用しよう！

04 科学技術館

● 千代田
区役所● 北の丸
公園SHUNKEN 2011
丸根下駅

← 武道館、靖国神社まで徒歩5分

vol.47 no.1

202

【Gallery & Museum】

01 サッカーミュージアム

／博物館

2002 年 FIFA ワールドカップ日韓大会の開催を記念して開設されたサッカーの展示施設。2002 年ワールドカップの試合の様様を大型映像装置「ヴァーチャルスタジアム」で再現するものや関連写真・資料の展示、販売店などもある。有料ゾーンでは、日本サッカーの歴史や関連資料を展示する他、日本代表のロッカールームを再現したコーナーなどもある。

📍 東京都文京区本郷 3-10-15

02 明治大学博物館

／博物館

明治大学の商品博物館・刑事博物館・考古学博物館が統合された博物館。前身 3 館から引き継いだ商品・刑事・考古の 3 部門と、大学史展示室、特別展示室がある。無料公開の常設展示に加え、さまざまな展覧会も開催。中でも刑事部門の展示は全国でも珍しいもので、「日本の罪と罰」に関する文書や絵画などの史料からギロチンまでを展示している。考古部門では、国の重要文化財に指定された全国の出土品を展示。国内有数のコレクションを誇る。

📍 東京都千代田区神田駿河台 1-1 アカデミーコモン地階

03 3331 Arts Chiyoda

／文化芸術施設（ギャラリー、カフェ、オフィス他）

通称「サンサンサンイチ」の 3331 Arts Chiyoda（アーツ千代田 3331）は、中学校の校舎を改修してつくられた文化芸術施設。（設計には、教員の佐藤慎也、古澤大輔、岡田章、宮里直也、山崎誠子の各先生が関わっている。）現代美術家の中村政人が総括ディレクターとして運営に携わり、かつての教室はギャラリーやデザイン系のオフィスとして、体育館は多目的スペースとして活用されている。大きなギャラリーもあり、展覧会からワークショップまで、年間を通して何百ものイベントが行われている。ウェブサイトをこまめにチェックしよう。1 階にあるカフェもオススメ！

📍 東京都千代田区外神田 6-11-14

04 科学技術館

／博物館

北の丸公園の中にある科学の博物館。現代から近未来までの科学技術・産業技術に関するものが展示され、どれも自らが主人公となって「見て・触って・体験する」ことができる。変わっている建物は、上から見ると星形。外から見ると格子で覆われていて、星型の穴が無数に開いている。その数なんと 22,392 個！ 宇宙に散在する星をイメージしたという。宇宙に関する展示も見逃せない。

📍 東京都千代田区北の丸公園 2-1

05 東京都水道歴史館

／博物館

文京区本郷にある東京都水道歴史館。もともとこのエリアは、東京の水道の歴史にゆかりの深い土地で、東京の近代水道が完成した 1898 年から続く本郷給水所もすぐ隣にあったり、水道橋もとても近い。1 階では近代水道を、2 階では江戸上水の歴史と技術を表示。大都市東京の水道インフラが、どんな風につくられているのか。その謎を知ることができる貴重な博物館だ。

📍 東京都文京区本郷 2-7-1

【Culture & Shop】

01 2k540 AKI-OKA ARTISAN

／ショップ・アトリエ、飲食店、ギャラリー

秋葉原～御徒町間の JR 高架下に 2010 年にオープンした「ニーケー・ゴーヨンマル・アキオカ・アルチザン」は、ものづくりの街。通常は倉庫や店舗に使われることが多い高架下を、ここでは独特の空間をそのまま使い、内部にはショップやカフェやギャラリーなど約 50 店舗のボックスを配して、商業施設としている。3331 やアメ横も近いので、一緒にまわってみるといいかも。

📍 東京都台東区上野 5-9

02 ヴィレージヴァンガード お茶の水店

／カフェ、雑貨

書籍から幅広い雑貨までを扱う名古屋発の「遊べる本屋」。売れているものがあるというより、趣味性の高い商品が中心だ。商品の並べ方は、それぞれの店舗で任せられ、レイアウトが異なる。下北沢店や吉祥寺店などでは、サブカルチャーの殿堂と言われるほど。そんなヴィレージヴァンガードのお茶の水店は、明治大学の脇を抜けて、少し歩いたところにある建築家・谷内田章夫の設計によるコンクリートの建物の地下にある。

📍 東京都千代田区神田小川町 3-14 ILUSA ビル B1

03 三省堂書店

／書店

神田神保町のランドマークといえば、この三省堂書店。周辺の古書店からすると、その出で立ちはまさにビッグファザー。今ではアメリカにも店舗を展開するほどの大手書店だが、最初は、約 130 年前の 1881 年に古書店としてはじまった。とにかく全てのジャンルの本が詰め込まれているから、困ったらここへい！ 因みに、「三省堂」という店名は『論語』学而篇の一節「吾日三省吾身（われ日にわが身を三省す）」から取り、かの大隈重信が初代社長に送った、というエピソードもある。

📍 東京都千代田区神田神保町 1-1

04 丸善 お茶の水店

／書店

JR 御茶ノ水駅聖橋口の目の前にある本屋さん、1869 年創業の老舗本屋。その昔は、近代日本における西洋の文化・学術紹介に貢献し、その紹介する商品によって培われた気風は「丸善文化」と呼ばれ、多くの文化人に愛された。また書店のみならず、学術情報から服飾・高級文具まで幅広く手がける。皆が設計の授業でもお世話になることが多い「コンパクト建築設計資料集成」も丸善出版によるものだ。

📍 東京都千代田区神田駿河台 2-8

05 レモン画翠

／画材

日大の建築学生といえば、「レモン画翠」。とにかく設計製図の授業ではお世話になりっぱなしのお店だ。JR 御茶ノ水駅・聖橋口を出て右手に少し歩いていくと、黒地の縦長看板に白文字で大きく「LEMON」と見えてくる。その 5 階建てのビルが「レモン画翠」。画材から模型の材料、出力に至るまで、何でも応えてくれるお店。まずは全フロアにどんなものが売っているのかを把握しておこう。因みに最近、不動産再生集団・ブルースタジオの手によって改装された。

📍 東京都千代田区神田駿河台 2-6-12

Let's take a walk from Surugadai

06 下倉楽器

／楽器店

JR 御茶ノ水駅御茶ノ水橋口を出て左に折れると、明大通り沿いにはたくさんの楽器店が建ち並ぶ。中でも、一番の品揃えといえばこの「下倉楽器」。管楽器から弦楽器、打楽器に至るまで、とにかく楽器という楽器を、すべて取り揃えていて、楽器店としては日本一かも。まるで楽器の博物館さながら。今でも全国の小学校から大学まで 100 以上の団体を陰から支える「下倉楽器」、ぜひ一度のぞいてみて！

☑ 東京都千代田区神田駿河台 2-2

07 ジャニス

／レンタルCD&DVD

本当の音楽好きには TSUTAYA なんじゃ物足りない。そんなあなたは今すぐジャニスへ行こう！駿河台キャンパスから数分、あるビルの一室にあるジャニスは、音楽好きが集う神保町のレンタル CD 屋。在庫枚数は、なんと 8 万枚！！あらゆるジャンルの CD&DVD が、天井までぎっしりと詰まった店内にはきつと興奮するはず。廃盤や稀少盤も数多く揃える。今まで、触れたことのないジャンルにトライしてみるのはどうだろう。

☑ 東京都千代田区神田小川町 3-6-9 神田第 2 アメレックスビル 9F

08 本と街の案内所

／案内所

世界有数の本の街・神保町界限には古書店が約 180 店もあり、さらにそれらの店舗は、それぞれが得意とするジャンルのある「専門店」だ。だから、探している本がどのお店にあるのか戸惑ってしまうのは、よくあること。そこで、古書店巡りの新拠点として 2007 年にオープンしたのが、この「本と街の案内所」だ。自分が探してる本やジャンルを扱うお店は、どこにある？とフラッと訪ねてみるのがツウ。ランチ探しにも使えるそう。

☑ 東京都千代田区神田神保町 1-7-7

09 ドン・キホーテ秋葉原店

／ファッション用品、家電製品、ブランド品ほか

再開発の駅ビルやヨドバシカメラもあるが、サブカルチャーの聖地アキバの顔としてははずせないのは、電気街中央通り沿いに面したドン・キホーテ秋葉原店が入るこのビル。2～4 階はドン・キホーテ秋葉原店が入り、8 階には AKB48 劇場も。戦後の闇市から出発した秋葉原は、家電製品を安く提供する街としてはじまり、パソコン関連用品、ゲームソフト、アニメ、フィギュアと、常に時代が求めるものに応える形で変わり続けてきた。今の時代に応えるドンキビル、まさに今、一層輝いて見える。

☑ 東京都千代田区外神田 4-3-3

10 南洋堂書店

／建築専門書店

建築専門の書店といえば、ここ「南洋堂」（設計：土岐新、改装：菊地宏）。全国から、そして世界からも、今日も建築好きたちが、この小さな書店を訪れる。数年前にリニューアルをして前面をガラス張りにした。新刊本に合わせて著者の建築家たちが、そのガラスに直筆の絵を描くイベントが不定期で行われている。日本だけではなく、世界中の建築本もあるので、定期的に通ってみよう。

☑ 東京都千代田区神田神保町 1-21

11 明倫館書店

／建築専門書店

神保町に店を構えたのは 1941 年。もともと理工学書の専門店だったが、現在では、医学、建築なども含む自然科学全般を広く扱う。建築本を探すなら、まずここへ。建築関係の意匠・デザインを扱った名著は、意外と絶版となっているものも少なくない。だからこういうお店に入荷しても、高値であってもすぐ売れてしまうのだそう。店先には常に特価本のワゴンが出ている。ランチ時間の合間に掘り出しものを探しに行くのはどうだろう。

☑ 東京都千代田区神田神保町 1-9

12 かけろう文庫

／古書店

1 号館脇のお茶の水仲通りの坂を下ったエリアの一角にある「かけろう文庫」は、絵画、写真、デザイン関係や古い挿画本や絵本など、店主独自のセレクトによる書籍を取り揃える。海外ものも多い。店長の「ものをつくるときのソースになるようなもの」という視点から集められたさまざまな本は、レイアウトや装丁が綺麗なものが多く、思わず手に取ってしまうものばかり。オンラインショップでも随時新商品の紹介をしている。

☑ 東京都千代田区神田小川町 3-26-3 坂本ビル 1 階

13 神保町シアター・神保町花月

／映画館、劇場

南洋堂の裏、すずらん通りを横道にそれたところに異様な存在感で建つ建物は「神保町シアタービル」（設計：日建設計／山梨和彦＋羽鳥達也）。小学館が運営する映画館「神保町シアター」と、吉本興業運営のお笑い劇場「神保町花月」からなる劇場・映画館のコンプレックスだ。映画館では、本格的な名画座としてさまざまな特集上映を行い、劇場では、吉本の若手芸人たちによる（新喜劇とは異なる）芝居が中心。テレビで見るあの芸人さんたちも、僕らの街を歩いているのだ。

☑ 東京都千代田区神田神保町 1-23

14 竹尾 見本帖本店

／ショップ

印刷・美術用紙、封筒などの卸・小売を手掛ける紙の専門商社「竹尾」のショールーム&ショップは、紙と印刷・加工の全てがわかる、実践的な紙の情報発信スペース。内装設計は、建築家の西沢立衛。紙やデザイン関係の書籍・雑誌や、海外のサンプル帳を閲覧できるほか、紙の特質を効果的に活かしたサンプルなども見ることができる。竹尾の 300 銘柄の紙が色のグラデーション別に一覧でき、A4 サイズの紙が購入可能。本やパッケージをデザインするには、紙の種類と特性を知ることが必須。展示会も随時行われているので、ぜひ一度訪ねてみよう。

☑ 東京都千代田区神田錦町 3-18-3

15 ディスクユニオン

／CD・レコード

コアな音楽ファンを対象としたレコードチェーンのディスクユニオン。新宿の次に店舗が多いのが、このお茶の水エリア。このエリアには、「お茶の水 HARD ROCK/HEAVY METAL 館」「お茶の水駅前店」「お茶の水クラシック館」「お茶の水 SOUL/RARE GROOVE 館」「お茶の水ジャズ館」「神保町店」の 6 店舗がある。

☑ 東京都千代田区神田駿河台 4-3 新お茶の水ビル 2F

駿河台から歩いてみよう

あなたはいくつ行ったことがありますか？

【Restaurant & Cafe】

01 さほうろ
／カフェ

「ラドリオ」「ミロンガ」と神保町には喫茶店の名店が多い。今回は、50 年以上前に創業した「さほうろ」を紹介。「さほうろ」は、当時のまま使われている山小屋のような佇まい。昔から数々の作家や文化人が繰り返し訪れた。ログハウス風の店内はあたたかい雰囲気、とにかく落ち着く空間だ。授業の合間、友だち同士で！がとてもお似合い。隣には「さほうろ 2」。こちらは食事を中心にナポリタンが人気。

☞ 東京都千代田区神田神保町 1-11

02 エチオピア
／カレー

お茶の水、カレーといえば、「エチオピア」。しかし、当初はカレーとコーヒーの専門店として開店したそう。ここのカレーの特徴は、なんといってもスパイシーさ。10 種以上のスパイスは、季節に合わせて微妙に配合を変化させる。まさに一度食べたら忘れられない味だ。ヘルシーで後味がすっきりしているのも人気の秘密で、油を極力使わないというポリシーの賜物。セットで必ず付いてくるふかしたジャガイモも美味しい。

☞ 東京都千代田区神田小川町 3-10-6

03 トフカ
／カレー

神田須田町にある老舗そば屋「松屋」の隣にあるのは、カレー屋「トフカ」。怪しいおじさんの人形が目印だ。クラシックな雰囲気のカレー屋。インドカレーと欧風カレーのどちらもが楽しめるのが特徴で、インドカレーはムルギ・ポーク・マトン・ムルギダ、欧風カレーは野菜・ビーフ・かつ・海老とそれぞれのルーに違う具を使っている。キーマもはずせない。スパイスのきいたキーマカレーとガーリックがきいたダルカレーの二種類が楽しめる。さらに、キーマの上に乗った生トマトとタマネギスライスで、途中の口休めもサッパリと。

☞ 東京都千代田区神田須田町 1-11

04 漢陽楼
／中華

中華料理の老舗店「漢陽楼（かんようろう）」。「創業の 1911 年当時、このエリアにたくさんいた中国人留学生たちによって店がつくられ、やがて留学生向けに故郷の味が振舞われるようになった。当時、明治大学政治学科に留学していた周恩来も好んで訪れたのだとか。オススメはまず月替わりの「今月のランチ」。旬な素材をふんだんに楽しめる。因みにメニューは基本中国語（日本語アリ）だ。

☞ 東京都千代田区神田小川町 3-14-2 漢陽ビル

05 サラファン
／ロシア料理

ランチにロシア料理ってのはいかが？ その名も「サラファン」。都内でも老舗のロシア料理。（ちなみに「サラファン」とはロシア語で、ロシアの女性の民族衣装を示す。）明大の坂を少し下りたところ。地下にお店はある。もちろんおすすめはボルシチだ。鶏や牛のエキスをベースに 10 種類の野菜でつくったスープは透明感のあるピンク色で、とってふくよかで幸せになる味。これが食べられる A ランチは、今週のメインディッシュや露西亜風パンとセットで 1000 円とお得！

☞ 東京都千代田区神田小川町 10-3 振天堂ビル B1F

06 avocafe (アボカフェ)
／カフェ

皆さんはアボカド好きですか？ このアボカフェは、日本初のアボカド料理の専門店として、2007 年に神保町の路地裏の古ビル 3 階に隠れ家的カフェとしてオープン。ケーキからオムレツ、丼物に至るまで、メニューは完全にアボカドづくし。リピーターも多いこのお店。気軽に入れる雰囲気なので、ランチもよし、皆でパーティー（22 名まで）もいいかも。

☞ 東京都千代田区神田神保町 1-2-9

07 めん徳 二代目つじ田 神田御茶ノ水店
／ラーメン

駿河台キャンパスから本郷通りを下りて靖国通りを東へ。少し歩くと、ランチ時やアフター 5 に毎日行列をつくっているお店。それがラーメン屋「めん徳 二代目つじ田」だ。全国総ラメンブームの中、継続的にファンを増やし続けている「めん徳 二代目つじ田」のラーメンは農耕豚骨魚介系。豚骨と魚介との絶妙なバランスに、ファンは日々悶えている。メインはつけ麺だが、もちろんラーメンも有り。すぐ近くには味噌系専門の兄弟店「味噌の章」も。

☞ 東京都千代田区神田小川町 1-4 和田ビル 1F

08 うどん 丸香
／うどん

東京で讃岐の風を感じたくなったら、今日は「丸香」のうどん。固くないけど弾力があるコシ、絶妙なつゆとのバランスを求めて、うどんファンが全国から駆けつけるお店。かけは讃岐のいりこだし。その透き通った美しさにドキドキする。かけ（温・冷）つけは、350 円からとリーズナブルだ。うどんだけでもいいが、できれば 100 円からあるサイドメニューも頼もう。お昼時は行列だが、うどん屋は回転が速いので、少し待てば入れる。

☞ 東京都千代田区神田小川町 3-16-1 ニュー駿河台ビル 1F

09 神田まつや
／蕎麦

5 号館脇の本郷通りを渡ったらそのまま真っ直ぐ。外堀通りも渡るとそこは神田須田町エリア。下町情緒に溢れるこのエリアは、そば屋「神田蕎麦」、鳥料理「ぼたん」、あんこう料理「いせ源」、汁粉屋「竹むら」、そしてこのそば屋「神田まつや」の 5 軒が歴史的建造物になっている。「神田まつや」は関東大震災後の 1925 年に建てられたもの。ほとんどが機械打ちの時代、「神田まつや」の蕎麦は手打ちだ。角が立ち、ほどよい喉越しの蕎麦をどうぞ。

☞ 東京都千代田区神田須田町 1-13

10 松栄亭
／洋食

5 号館から「神田まつや」へ。その手前にあるのは「松栄亭」。昔から変わらない懐かしい味が楽しめる洋食屋。中でも 1907 年の創業時に初代が考案した洋風カキアゲは、夏目漱石も好物だったという看板メニューです。肉とタマネギを塩で味付けしてラードでゆっくりフライ。衣サクサク、申し分ない。オムライスやハヤシライスも人気です。

☞ 東京都千代田区神田淡路町 2-8-6

Architecture

01 ニコライ堂

／教会

JR 御茶ノ水駅の聖橋口から坂を下りていくと、ふと頭上に現るは、堂々たるニコライ堂（設計：J. コンドル）。ドーム屋根の高さは 35m。日本正教会の本部として、1891 年に竣工した。完成当時、周辺には高い建物はほとんどなかったため、高台に建つニコライ堂は遠くからも見ることができランドマーク的な存在だった。入口は一本中に入った通り（お茶の水仲通り）側に。日本初にして最大級の本格的なビザンティン様式の教会建築。奉神礼が行われていない時間帯に見学も可能だ。

☒ 東京都千代田区神田駿河台 4-1-3

02 聖橋

／橋

JR 御茶ノ水駅のホームからの景色はいつ見てもダイナミック。ホームからは聖橋（ひじりばし）の全貌を間近で見ることができる。聖橋は、橋長約 92m、幅員 22m のアーチ橋。関東大震災の復興橋梁として 1927 年に架けられた。設計は、日本武道館や京都タワーを設計した山田守。さて「聖橋」というネーミングは何か？北側の湯島聖堂と南側のニコライ堂、日本文化と西洋文化を結ぶ橋として付けられた名前なのだ。じゃあ、「お茶の水」の由来は？これは徳川 2 代将軍秀忠が、この辺りの神田山の高林寺の庭から出た湧水を気に入り「お茶の水高林寺」と呼んだのが最初。街のことは調べるほど、街歩きは楽しくなる。

☒ 東京都千代田区神田駿河台 4

03 湯島聖堂

／女子館

駿河台キャンパスとは反対側。あまり行かないかもしれないが、たまには聖橋を渡ろう！すると右手に見えてくるのは緑の森。その中は、日本の学校教育発祥の地、湯島聖堂だ。ここのメインは大成殿。これも聖橋と同じく震災後に建てられたもの。設計は、築地本願寺などを手がけた伊東忠太。忠太建築の大きな特徴といえば、随所に登場する妖怪や動物を模した装飾だが、大成殿の屋根、棟の両端にも何かがあるぞ。よく見てみると、そこに鎮座するのは鬼状頭（きざんとう）と鬼龍子（きりゅうし）。他にはどんな特徴があるのか調べてみよう。

☒ 東京都文京区湯島 1-4-25

04 旧万世橋駅

／駅

JR 神田駅～JR 御茶ノ水駅間を電車で移動していると途中で煉瓦造りのホームがあることに気づく。そこは 1912～19 年の 7 年間、万世橋駅があったところ。震災時の焼失などにより 1、2 代目と移ろい、やがて 3 代目の際には鉄道博物館と併設された。交通博物館が埼玉県へ移ると、跡地にはビルが建設された。そして現在、旧万世橋駅の遺構が整備されはじめている。この春には、高架下のアーチ内部に、遺構と一体化した商業施設が展開され、神田川側に親水デッキも設置されるそう。さらに夏には階段遺構やホームといった駅舎跡も公開。展望カフェや屋外デッキも完成するそう。デザインパートナーとして建築家ユニット・みかんぐみも参加している。

☒ 東京都千代田区神田須田町 1

05 学生会館

／宿泊・レストラン・会議室・結婚式場ほか

学生会館は、旧帝国大学出身者の交流の場だった。当初は木造の建物だったが、関東大震災後の 1928 年に現在の建物へ。外壁は昭和初期に流行したスクラッチタイルで、斬新かつモダンで重厚な雰囲気を持つ。震災の教訓を活かし、当時では珍しい耐震・耐火の鉄骨鉄筋コンクリート造となっている。建築推進の中心となったのは、日大理工建築の祖である佐野利器。設計は佐野の門下生の高橋貞太郎。地盤基礎にはなんと約 1,300 本の松杭が打ち込まれていて、その一部が一階に展示されている。80 年以上を経た今は、宿泊、レストラン、会議室、結婚式場などを完備し、一般の人々にも利用されている。

☒ 東京都千代田区神田錦町 3-28

06 カトリック神田教会

／教会

交通量の多い白山通りから、東側へ二本路地を入った錦花通りを歩いていると、ビルの合間からヒョコッと現れるのは、カトリック神田教会。フランス人宣教師シェレル神父の構想により、1928 年に完成したもの。今でも当時の面影のまま残り、国の登録有形文化財に指定されている。設計は上智大学一号館や栃木県松ヶ峰教会を設計した、スイス人建築家マックス・ヒンデル。聖堂の外観はロマネスク様式で、内部は円柱を並べ、半円ヴォールト天井を架けて深い奥行きを持たせている。この界隈の名建築と同様、震災復興期に設計されたため、耐震性を考慮して鉄筋コンクリート造となっている。

☒ 東京都千代田区西神田 1-1-12

07 WATERRAS (ワテラス)

／大規模複合施設

最後に取り上げるのは、この春、駿河台キャンパスの直ぐそば、5 号館から本郷通りを渡ったエリアにオープンする「WATERRAS (ワテラス)」。神田、お茶の水エリアでは、これまでにない規模の再開発となるワテラスは、神田淡路町の地域交流も目的としたコミュニティ複合施設。敷地内に元々あった淡路公園も公共広場と共に再整備され、従来の 3 倍も緑が広がる。（この計画には、短大准教授の山崎誠子先生も携わっている。）4 月 12 日にオープン予定の商業ゾーン「ワテラスモール (WATERRAS MALL)」をはじめ、オフィスやレジデンス、そしてスーパーマーケットや保育施設といった都市生活を支える施設も揃う。施設内には、アネックス棟の最上階 2 フロア（14、15 階）に学生専用マンション 36 戸が設けらるのだが、その仕組みがおもしろい。ここに住む学生たちは、周辺エリアの街づくりの活動に関わることが求められる。住み暮らしながら地域に根ざした活動も行っていく。建築学科の学生たちも何人かが入居する予定だそう。いつかその暮らしぶりも「駿建」で取り上げたい。

さらにワテラスと御茶ノ水駅の間、日立製作所旧本社ビル跡地でも開発は進んでいる（御茶ノ水ソラシティ）。いずれはこの計画とワテラスは接続し、雨に濡れずに駅まで歩いて行けるようになる。先に紹介した旧万世橋駅の再開発も目と鼻の先。2013 年、駿河台キャンパス界隈は、より一層外からも注目されるエリアに生まれ変わりそうだ。

☒ 東京都千代田区神田淡路町 2-101

今を考え未来を創る みんなの設計 みんなの研究

大学を卒業するための大きな関門といえば、やはり卒業設計、卒業論文ではないでしょうか。これまで卒業をしていった2万人以上の先輩たちも、その時代時代にそれぞれの問題やテーマを見つけ、卒業設計や卒業論文にチャレンジしてきました。

卒業設計と卒業論文、あなたはどちらにチャレンジしますか？ そう考えたとき、大学の中では、一体どんな設計や研究がされているのか？ それを具体的に知るチャンスはなかなかありません。華々しい卒業設計はまだまだ、卒業論文は特にそうですね。

そこで、今回の特集では、「みんなの設計 みんなの研究」と題し、全ての分野の卒業設計、卒業論文にスポットを当ててみました。受賞作だけではなく、受賞はしなかったけれど、テーマや取り組み方が魅力的、夢があるものも取り上げています。蓋を開けてみると、そこには想像以上に魅力溢れる設計や研究がたくさんありました。皆さんも、きっと驚かれるに違いありません。キラリと光る魅力的な設計や研究はどれか。あなたの興味と嗜好を重ねながら、楽しんでください！

卒業設計 1

自分でテーマを見つけ、やりたいことをデザインできる。

桜建賞

Tokyo Public

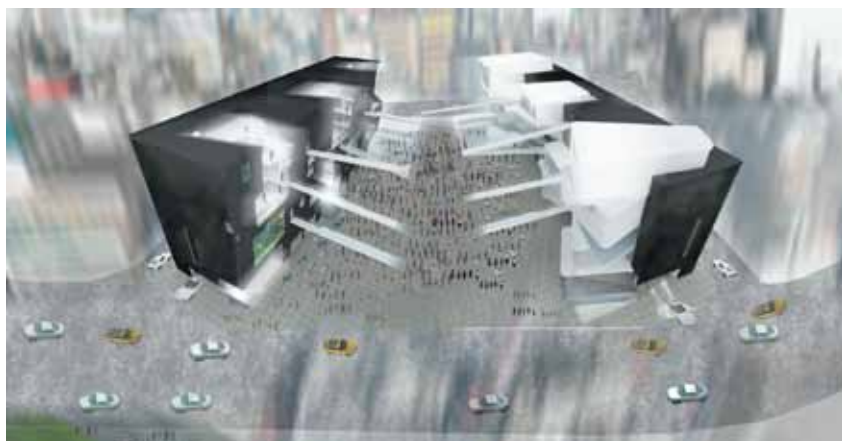
沢田拓郎くん（建築学科4年・今村研究室）

モータリゼーション以降、急成長を遂げてきた日本の都市は、ほとんどの道が「交通」のための道路へと変貌してきた。一方、パブリックスペースを担っていた「道の文化」としての風情は衰退。闇市などの面影は、一部の商店街などでしか見られなくなり、日本には真のパブリックスペースがなくなってしまった。また、近年、総合設計制度などを利用してつくられる広場も多く見受けられるが、そのほとんどは都市の一部をなすようなものにはなっていない。このような背景を受け、現在、新宿にある「広場に生まれ変わろうとしている道路」に着目し、その広場のためにつくられる道路を挟んだ2つの建築を提案した。

「広場に興味が沸いたのは、3年生のとき。海外研修旅行でヨーロッパを訪れ、都市環境の豊かさに感銘を受けたことがき

かけでした。イタリアをはじめヨーロッパの都市はどこも人々のためのパブリックスペースが充実していました。ところが、生まれ育った東京へ帰ってくると、そのような場所がない。そこで、日本のような高密度化した都市で、どのようなパブリックス

ペースが可能なのかを考えはじめました。提出の2週間前にエスキスを受けたときに、案を一からやり直すことになったり、規模が大きく設計の量が多かったのととても大変でしたが、周りの人たちに支えられながら、完成させることができました。」**図**



卒業設計 2

卒業設計は、4年間の自分と向き合う時間。

奨励賞

淡路島拠点再編計画 - コンパクトアイランドに向けた淡路島総合庁舎の設計

川口勝功くん（建築学科4年・横河研究室）

生まれ育った淡路島。自然も豊かでさまざまな特徴を持つこの島に卒業を通して何かを提案することはできないか。川口くんの卒業設計は、そこからはじまった。調べていくと、淡路島は、さまざまな問題を抱えていることがわかった。そこで、今回の計画では、それらを解決するために、淡路島の運営行政の再編と総合庁舎の設計を合わせて提案した。島が抱える問題はもちろん、日本の市庁舎建築が持つ問題を解決するきっかけとなるような空間の提案を目指している。総合庁舎の具体的な機能としては、行政、議会機能、農業学習施設、商業施設からなる複合施設だ。

「大学入学と同時に東京へ出てきました。自分が故郷の島に何が提案できるかと考えたとき、この島にあるいろんな姿を多くの人に伝えたい。このことが、このテ

ーマを取り上げた大きなきっかけとなりました。同時に自分が住む島が、いつかこんな姿になってほしいという想いで取り組みました。設計を進めていく中で、一番重視したことは、主観に入りすぎず、主観的な

操作と客観的な操作を最後まで繰り返すようにしたこと。スタディは何十案にもおよびました。途中、自己決定がしづらい時期もありましたが、うまく乗り越えて完成させることができました。」**図**



みんなの設計

卒業設計
3

設計は、何より自由なところが楽しく、苦しいところ。

AD 賞

松林と建築とわたし

富樫由美さん（建築学科4年・佐藤光彦研究室）

慣れ親しんだ何十キロも続く松林に4年間で学んだ7種類の建築を置く。富樫さんは、様に続くかのような松林に小さな変化や違いをみつけて、それまでの4年間の設計課題のプログラムを引用し、複数の建築を新たに配置することで、周囲を再定義し、松林全体を公園として再構成した。

「建築が外部をいかに内部に取り込むかということ、「見る」という行為、

人の空間認識、カメラの仕組みなどに興味がありました。現実を写しながら、見知った風景とは違った風景を見せることで、伝えたいことや良さ、変化を増幅させる写真のような建築をつくりたいと思いました。しかし、このような自分の興味を具体的な建築へつなげることに苦労しました。

また、見慣れた表現にならないように、パソコンを使わずに自分らしい表現をたくさん試しました。建築の世界

はもっと広いし自由。ただそこにリアリティを持たせること、他人と共有できることをおろそかにしてはいけな

い。そう、改めて感じました。」 

卒業設計
4

自分自身の中にある建築の姿を追い求める。

AD 賞

じかんのいえ

岩崎晃太郎くん（建築学科4年・佐藤光彦研究室）

近年、増加している限界集落を舞台に、建築合理性の無い場所に建築することの意味を岩崎くんは自身のテーマとして、設計を行った。敷地は、ケーススタディとして群馬県甘楽郡南牧村を取り上げた。設計手法は、廃屋に対して空間装置と呼ばれる、その土地のコンテキストのメタファーを光に置き換えたモデルを挿入するというもの。また、その過程での空間装置の構成も外壁の材を利用

する。装置以外の廃屋の部分を地域の生活者にとって開けた場所とし、彼らと来訪者、つまり社会性との接点とすることを考えた。

「限界集落に建築がどう介入していくのかという議論のきっかけになればという想いで制作しました。最初は、アートプロジェクト全般を研究していて、その対象地域にある高齢化と過疎化という深刻な問題を知りました。普段はリアリティを感じることがありま

せんでしたが、このような問題に建築が介入していくには、どんな方法があるのかということを主体的に考えてみようと思い、このテーマに取り組みました。学内での審査の後、学外の展示会に出展する機会もあったのですが、そこでは改めて、視野を広く持つことの難しさを知りました。ただ、自分自身の建築観と真正面から向き合うことができ、そのことにおもしろさを感じることができました。」 

卒業企画設計
1

実現性や合理性の中に、おもしろさを創り出す。

企画奨励賞

団地「再生」から「再構築」への転換点 - エネルギー的・社会的・経済的に持続可能な次世代型団地の提案 -

小林寛くん（建築学科4年・川島研究室）

今後、確実な人口減少を迎える際に「団地再生」という取り組みは、高層化による建替えや住居機能の更新を目的とした「再生」だけで十分なのか。小林くんは、単なる「再生」ではなく、さまざまな持続可能性を持ちながら、良質な居住空間を整備する団地へと「再構築」する方針へ転換すべきだと考えた。そこでまず、団地が持つ広大な敷地と緑地ストックを活用。豊かな緑を享受できる住まいを

提供するとともに、エネルギーの安定的供給や地域社会への参画、経済的持続性といったこれからの社会に対応した団地の「再構築」計画を提案した。

「団地の問題にはずっと関心がありました。大規模な団地において広大な敷地は「資産」であり、住宅を集中させるだけでなくさまざまなことを行えるだけのポテンシャルがある。企画設計は通常の卒業設計よりも「客観的合理性」と「実現可能性」が特に大事だ

と思います。その中で、各提案をどう実現させていくかということをわかりやすく表現することが難しかったです。企画は、膨大な量の情報を収集し、そこから実現性や合理性を確保しながら相手におもしろいと思わせられるよ

うなものを考え出さなくてはならない。けれど、それが「企画屋」ととしての醍醐味であり腕の見せ所だと思います。」 



CLOUD—雲物理学研究・芸術センター

伊東拓也くん（短大2年・田所研究室）

空

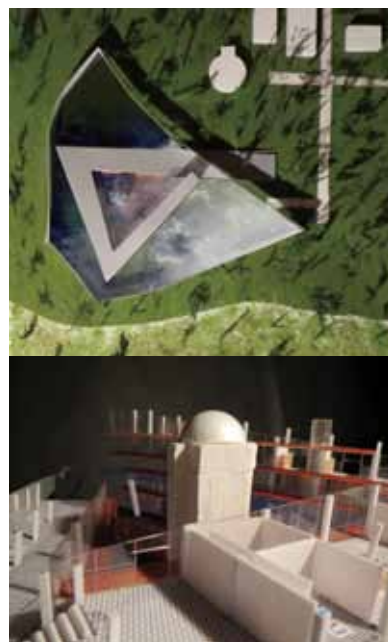
間把握や視覚的認識の観点から、雲をテーマに建築へ落とし込むために、伊東くんは、ボーッと風景を見上げる空間、時間を忘れるような空間、日常とは違う風景をつくることを目指した。水盤を頭上に設け反射した雲が水面に映ること、建築と雲が一体になる。その風景に連続性を持たせるために、巨大なスロープを通し、頂上からは自然が見渡せるようにした。水盤が途切れる日、つまり雨の日には建物全体が水たまりとなり、虚像の下で暮らす浮遊感を考えた。

「あるとき、建築家の藤本壮介さんが雲をテーマに作品をつくっているのを見ました。雲で建築を考えるなんてありえないことだと思っていただけに、自分がいかに固定概念でものを考えているかに気づかされました。それに、そもそも僕は小さいころ

から雲に興味があって、物心がついたときからインスタントカメラで雲を撮っていたのです。雲は刻々と姿を変え、一秒後には違った姿を見せる。だから瞬間瞬間の写真で、その変化を伝えることができる。そういう重なりの中で、「雲の建築」をテーマに選んだのです。

ふわふわした一般的なイメージの雲ではなく、自分の中にある雲のイメージを建築化することが、とても大変でした。20年間、雲を追いつけていてもそれを言語化することが難しい。たくさんのスケッチとスタディを繰り返しました。僕らがつくる建築は、僕らが死んでも生き続ける。自分の中にある言葉にできないものをプランやパース、模型に籠めて形にすることが僕らの仕事であり、そこに楽しさがあるのだと改めて強く思いました。」

映



上：全体模型 下：内観模型

半球状骨組膜構造を型枠としたアイスドームの制作に関する実験的研究

浅川景太くん（短大2年・黒木研究室）

今、

寒冷地における仮設建築物として雪や氷を構造体としたアイスドームが注目されている。堆積させた雪の塊をくりぬいてつくる古くからの「かまくら」に対して、近年は空気膜構造を利用したアイスドームの建設事例が見受けられる。浅川くんは、これらとは異なる、柔軟性のある曲げ材と膜からなるハイブリッド構造を原型としたアイスドームを提案した。形状は直径1mの半球ドーム。型枠としての膜面に張力を導入するため内部に8本のアーチを挿入し、でき上がった膜面に水を散布し凍らせることでアイスドームをつくる。

「厳寒多雪という自然環境条件下でしか実現しえないアイスドームを、簡易的な構造でどのような寒冷地域でも実施することを目指してアイスドームの制作に取り組みました。はじめての試みだったので、トライ

アンドエラーの繰り返し。時間をかけてつくっても、精度が悪いと、完成形状の測定時に誤差が出てしまう。部材の特性を考えながら計算を行い、それを逐一確かめながら行っていくことが、手間はかかってもとても重要なことだと痛感しました。海洋建築工学科の恒温室を借りて行った膜体に水を散布する作業は、実に2昼夜かかりました。-20℃という低温の中で水を散布する作業は大変でしたが、目標氷厚の30mmに達したときの喜びはひとしおでした。先生や周りと相談し、自分の意見を交えながら方向性を導いていく楽しさと、また、大きなモデルをつくったこともあり、ものづくりの楽しさも大きく感じました。私は真面目な方ではなかったのですが、この制作を進めていく中で、今まで隠れていた自分の姿を見つけることができました。」

映



上：膜模型の制作風景。 下：膜体に水を散布しながら、アイスドームを制作していく。

騒音分野における紛争の判例分析と司法判断に対する検討

丸山明恵さん＋齋藤成二くん＋津波古翔太くん（建築学科4年・建築音響研究室）

丸 山さんたちの研究は、近年増加している騒音分野における裁判や紛争のあり方、その法廷判断について、建築的な視点から実態を把握し、現在の裁判の問題点を考察した。「隣戸や上階からの音がうるさい」などといったことから訴訟に至る例も少なくない。これは近年の建築技術や住宅性能の向上にともない、都市に暮らす人々の要求する生活レベルが高くなっている社会状況にあるとすることができる。そこで、騒音分野に関する裁判や紛争の判例を読み込み、訴訟の早期解決を目的に原因分析や建築裁判における問題点の提起を行った。

「建築物のデザインや性能がどんなによくても、そこに住まう人や利用する人たちにとって問題が起きてしまう建築では、本来の役割を果たしていないのではないか。

ただの箱ではなく、本当に住みやすい、使いやすいと感じられる建築をつくることに関わる問題として、このテーマを選びました。このテーマは司法との関わりが強いものだったのですが、判例というものに触れるのはじめてで、その読み方をつかむところからとても難しかったです。また、共同研究では、他の2人と認識を一致させながら、客観的な視点を持つことに注意が必要です。そのため何度もこまめに話し合いをしながら進めていきました。論文をつくることは、自分の知らなかったことを知り、発見すること。そして、そこから新たな視野が広がり、新たな考え方が生まれる。それが少しずつ楽しさになっていくのだと感じました。」（丸山）



夜間の路地における対面者の視認性と不安感の評価

大杉大くん＋矢作朋之くん（建築学科4年・環境・音響研究室）

夜 の路地を歩いていて人とすれ違うとき、人はどれほどの不安感を持つものなのか。大杉くんたちは、夜間における不安を抽出する要因を人に限定して、特に見えづらさ（視認性）に注目した研究を行った。（因みに路地とは、道路の幅員が3.0m以下かつ停止線または一方通行の標識があり、比較的交通量の少ないものと定義される。）具体的には、誘目性を考慮した人間



東京の夜間路地の風景。明暗のコントラストが強い。

の視点から見た対面者の視認性と不安感の関係性について調べ、それらに対応する物理的指標を求めて、路地空間の照明設置基準に新たな可能性を示した。

「光源の種類や数が少ないローカルエリアの夜間は、空間全体が暗く、不安に感じてしまうのは当然です。一方、都心部の夜間は、街灯以外のさまざまな光源が存在し、飛行機のパイロットたちが、東京の夜景は「世界一の夜景」と評するほど煌びやかです。一見すると、都会では不安を感じる事が少ないと想像してしまのですが、実はそうではありません。確かに、大通り沿いは光が十分に行き渡っていますが、一步路地に入るとコントラストの差から路地の暗さが目立ってしまうのです。

そこで私たちは、暗い路地空間における対面者の見え方が人の心理的状態に、どう

影響するのを知りたいと考えました。実験は、4号館の屋上にパイプや照明機材などを運び、仮想の路地をつくり行いました。毎回、設置だけで4時間もかかったこと、更に、実験の想定が夜間だったので、被験者を集めることや被験者に先入観を与えないようにすることにも苦労しました。結果、不安感と輝度比には関係性があり、屋外の照明計画に輝度による基準が必要だということを示すことができました。

しかし、不安感という心理的状態はまだまだ曖昧。人間の感情をデータにより数値化することは大変難しいものです。あらゆる観点から感情の一つひとつを検証していかなければ関係があると断言はできません。それほど人間は複雑で興味深い存在なのだ気づくことができました。」（大杉）

自分の好きだと思えるものをやるのが楽しさにつながる。

建築物利用者の職場環境と健康に関するアンケート調査

中川優馬くん（建築学科4年・池田研究室）

建物には適切な室内の温度や湿度などの空気環境が求められる。それを具体的に基準値として定めたのが、建築物衛生法の建築物環境衛生管理基準だ。ところが、近年の調査では、その基準を満たさない建物が多く、利用者の健康に影響をおよぼしている可能性があるという。そこで、中川くんは、アンケートにより健康障害の実態を把握し、さらに統計解析ソフトを用いて、自分でルールを設定した解析モデルを組み、健康障害の要因を明らかにする研究を行った。

「もともと室内の空気環境が、人に与える影響を調べてみたいと思っていました。僕自身も、エアコンの風にあたって気分が悪くなることがよくあって、これは本当に人にとって快適に設定されているのかと疑問を持っていました。そういうこともあり、

予めいくつか決まっていた研究テーマの中から、自然とこれを選びました。

解析を進めながら、徐々に、健康障害を起こす可能性の高い要因を抽出していくのですが、配布したアンケートは全部で約6000人分！ミスなくデータを確認しながら解析を進めていくことが大変でした。

正直、最初は、早めに完成させてしまお

うという気持ちもありました(笑)。ですが、研究を進めていくうちにさまざまな問題や疑問が浮かんでくると、どうすれば解決できるかを考えることにのめり込んでいったのです。作業は本当に提出期限のギリギリまでかかりました。最後に提出を終えたとき、自分がこの研究を楽しんでいたことに、はじめて気づきました。」

図2

実際に配布したアンケート用紙。

気の済むまで調べられるのが、卒業研究の良いところ。

他動的運動訓練が高位頸髄損傷者の身体状況に及ぼす影響 -7年間にわたる体調管理日誌の季節毎の分析について-

小柳裕希くん+小林大起くん（建築学科4年・蜂巢研究室）

小柳くん和小林くんは、リハビリに他動運動を取り入れると、四肢麻痺になった頸髄損傷者（以下、被験者）の身体には、どのような影響が見られるか、また体温調節機能や知覚機能にどのような変化が起こるかということについて研究した。一見、この内容を聞くと医学や福祉の分野のテーマのようにも思われるが、研究の目的としては、高位頸髄損傷者が室内環境にどう適応するか、ということを見据えた上で検討しているため、最終的には建築を含めたさまざまな分野を兼ねそろえた発展的な考えが必要になるという。具体的には、実際に被験者の自宅を訪ね、介助者の方と共にリハビリを手伝いながら、ヒアリング調査を行った。

「僕は、大学入学前からボランティアや地域活動を通して、高齢者の方と関わる機

会が度々あり、福祉分野には興味を持っていました。建築を学びながらも、福祉関係の勉強や活動も在学中に取り組みたいと思っていたので、建築と福祉の両方の分野が学べるこの研究室を選びました。主な作業は、被験者の体調管理日誌や筋量測定、室温などのデータをグラフや表にまとめ上げることと医学福祉関係の論文などを調べることでした。自分たちの考察や予測と結果や資料を照合しながら、議論を重ねることが一番苦労したことです。1つのことを2、3時間もかけて話し合うことも度々ありました。」（小柳）

「建築学科で行う研究なのだろうか？と疑問に思うこともありましたが、そんな狭い視野の考え方ではなく、物事を大きく捉えることが大事。このような研究には、専門分野をまたぐことが重要であると感じ

されました。知らないことを教わるのではなく「自分で調べていく」、ここに最大の楽しさがありました。」（小林）

図3





大震災をひとつのきっかけに、考え出した新しい吊り天井。

桜建賞

吊り天井を TMD として利用した新しい吊り天井システムの開発

田中俊介くん + 高野晋光くん（建築学科4年・対震構造研究室）

対

震構造研究室の田中くんと高野くんによる研究は、新しい吊り天井システムを研究するもの。3.11 では、約2000 施設で吊り天井の被害が発生。国土交通省は、3つの吊り天井の設計ルートを設定したが、より簡易的に制震設計できる方法があるのではないかと研究をはじめた。結果、吊り天井そのものの質量などから制震部材の最適な諸元を簡易的に算出することができる最適設計法を提案。また、この設計法を用いて、低コストで施工性の高い制震改修方法までも提案した。

「制震部材の設計では、何度も試行錯誤をくり返して、卒論発表会の数日前まで実験をしていました。何度も間違い、なかなか上手くいかない日々が続きましたが、解析で良い結果を得て、実大振動実験で制震性の向上を確認できたときは1年間やって

きた苦労が報われて、とても大きな喜びとなりました。

僕は来年度から東京消防庁に就職する予定です。建物の防災上の安全性をチェックする予防課を希望しています。最初は、今後の消防士としての活動に活かせる研究をしたいと、この研究室に入りました。そこで、東日本大震災で多くの天井の被害が発生していることを知り、構造物の制震性・耐震性を考える振動学を学ぶことで、今後の消防士としての活動に活かせると考えました。自分が救助隊に配属されたときに、建物内部の構造を知っていた方が、迅速な救助ができると考えたことが、吊り天井の研究をはじめのきっかけとなりました。」
(田中)



上：吊り天井中央のボルトを止める作業時の写真。
下：大きな試験体が完成。メンバーで記念写真を撮る。



自分の手でつくり、みんなの協力で成し遂げた研究。

桜建賞

木造面格子壁の構造特性に関する研究 - 格子間隔が剛性と耐力に及ぼす影響について -

竹内梓さん（建築学科4年・空間構造デザイン研究室）

空

空間構造研究室では、数年前から「品川シェルター」を研究、開発している。これは木造既存不適格住宅に対して、仮住まいを必要とせず、安価に設置できる簡易耐震シェルター。ここに使われている木造面格子壁の相欠き接合部が、めりこみ抵抗し、壊れてからも粘り強く耐え空間全体を守るといわけだ。この木造面格子壁に惹かれた竹内さんは、一つひとつの部材の間隔や本数の違いによって、木造面格子壁の剛性や耐力といった構造特性がどのように変わるのかを研究した。

「私たちの作業部屋は、4号館の地下室。薄暗い部屋に、みんな朝から晩まで、時には泊まり込みで作業をしていました。今日は誰に会えるだろうか？と、いつも地下室の扉を開けるのが楽しみでした。実験で一番大変だったのは、試験体の製作でした。

自分で木材を調達し、一つひとつ丁寧に電動のこぎりを使い手作業で木材に相欠きを施していく。施工精度が結果に大きく影響するので、気が抜けませんでした。研究室では、みんなテーマを自分で一から決めて取り組んでいきます。最初はわからないことばかりでしたが、先生や先輩方がたくさん支援してくださいました。さらに実験では、多くの人に協力してもらいました。研究の楽しさの秘訣は、自分一人ではなく、多くの人と共に励まし合い、協力し合って進めていくことかもしれません。」



上：木材への相欠き作業。 下：最後は船橋の大型実験棟で実験を。準備、実験、片付けと多くの人に助けってもらった。

竹編みを用いたドーム構造の構造特性と適用性に関する基礎的研究

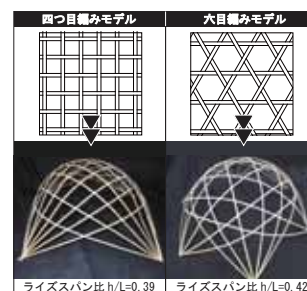
江口果菜美さん（建築学科4年・空間構造デザイン研究室）

江口さんが卒業研究で提案したのは、竹材の材料特性とカゴ編みの持つ構造特性を活かした竹編みによるドーム構造。竹という材料は、比強度や柔軟性に優れていて、昔から身近な材料としてさまざまなものに利用されてきている。その竹材を柔軟性に富む直線部材としてカゴ状に編むことで、部材同士の間に摩擦が生まれ、安定した形状を構成するというわけだ。今回の研究では、四つ目編みモデルと六目編みモデルの2種類を提案。ただ形をつくるのではなく、仮設構造物への実現可能性を示すために、載荷実験や試行建設を通して、基本的な構造特性を把握して適用性を検討し、六目編みモデルがより大きな剛性、耐力を有することが示された。

「研究室には、木班、テンポラリー班、ガラス班、膜班などの班があります。私は、人

に安らぎを与えてくれる木質材料の質感や曲面の美しさが好きで、木班に入りました。テーマを探すときに、「芦北町地域資源活用総合交流促進施設」という四つ目編みを用いたカゴ編みの構造特性を持つ建築物に出会い、美しいカゴ編みに構造特性があることに衝撃を受けました。早速、カゴ編みについて調べてみると2010年に既往の研究があり、そこから研究が進んでいきました。

実際に手を動かしながら研究を進めると、ふとしたときに発見があって、これほどおもしろいものはありません。もちろんハプニングもあります。よく予想外の結果も起こりました。ただ、「え！？こんなになるの！？」という現象も、その原因を追求することが、大変だけどおもしろい。そのような予期せぬものと出会うことも私の研究の楽しさの一部でした。」



上：試行建設。下：四つ目編みモデルと六目編みモデルの2つのモデル。

ペット同伴可能な宿泊施設における建築材料の使用状況に関するアンケート調査

川口朋子さん（建築学科4年・材料施工研究室）

近年、室内で飼育されるペットが増加し続け、それに伴い、ペットの床材でのすべりが原因となる怪我や床材や壁材のひっかき傷などが問題となっている。そもそも建材というものは、人間が人間のための安全性や快適性を目指して開発してきたものだ。しかし、同じ居住空間で暮らす以上、ペットの安全性や快適性も求められる時代になってきたということだ。しかし実際は、さまざまなメーカーからペット対応の建材が販売されているものの、住宅などでは、建材の改修そのものは困難な状況にあるという。そこで、川口さんの研究では、これらの問題を改善するために、年々増加傾向にあり、一般住宅よりさまざまな点で先端と考えられるペット同伴可能な宿泊施設に着目して、その現状を把握するアンケートを実施し、結果をまとめた。

「研究室では毎年、いくつかの研究テーマが用意されていて、その中に今年度からは、「ペットと建築材料の関係」がありました。私の家でも室内で猫を飼っていて、猫が走り回ってはすべってしまうことがあった。そういう日常の経験が活かせるのではないかと、このテーマを選びました。ですが、それ以前に参考できる論文が一切ない。これはとても大変でした。はじめは、ペットの床すべりを軽減させるための実験を行う予定でしたが、新しい研究であるため、実験方法や実験をするペットが決まらず、最終的には宿泊施設へのアンケートを実施する形としました。論文を作成していくことは、自分との闘いでした。同じ部屋にいても、みんなそれぞれが自分の論文と向かい合い、助けを求めることができない。自分でペースを考えて進めなければならない

いので、焦りを感じる日もありましたが、ペットと建築材料の関係を改善する研究を目指すことにやりがいを感じ、頑張ることができました。」





大きな問題は苦しくても、同時に大変な魅力がある。

桜建賞

江戸時代の教育空間に関する研究 - 東日本の7つの藩校を中心として -

大庭矩文くん（建築学科4年・山中研究室）

大庭くんは、江戸時代の教育機関である藩校について研究を行った。建築学の世界でも手付かずの分野であったため、まず行ったのは、全国の藩校を一覧



化する作業。その後、7つの藩校の実地調査や平図面の調査などを行い、日本の伝統的な教育空間のあり方について論じた。研究成果としては大きく2つ。ひとつは、バラバラになっていた藩校に関するデータを一覧化したことで、今後の藩校研究の足がかりを構築できたこと。もうひとつは、江戸時代においては、現在の学校建築のような法制度に則った学校の規格化が行われず、各藩が独自の立場から多様な藩校を持って、全国にさまざまな教育空間が花開いていたことを明らかにした。

「テーマを模索していた頃、実家に帰省すると、私が幼い頃、私塾の遺構を家族で巡った思い出が話題にあがりました。日本の伝統に関心があったので、教育学者の父に江戸期の教育機関について尋ねると、目を輝かせ熱弁を振るってくれました。直感

的に研究のテーマとなりうるのではと思い、既往研究を調べていくと教育学からのアプローチは多くあるものの、建築学からの研究がほとんど進んでいない。日本の伝統的な教育空間について、近代以降の研究は盛んに行われているのだから、この時代についても研究を進めるべきだと考え、このテーマに取り組みました。

既往研究が少なく、挙げられる問題は山積みでしたが、そのとき、参考にしたのが研究室の過去の論文でした。テーマは異なっているけれども、どれも目的に対してさまざまな手法を用いて地道に取り組んだ跡がみえるものばかりで、研究の射程を設定する感覚を掴むことができました。研究を終えた今、あらためて自分の論文が山中研究室の先輩方が積み上げてこられた研究の基礎の上にあるのだなと感じています。」

駿



1年をかけた研究は、やり遂げることで、自信にも繋がる。

駿優賞

諏訪大社の摂社・末社の構成に関する基礎的研究 - 諏訪大社の祭祀に関連する御柱配置に関する一考察 -

金子真由美さん（建築学科4年・重枝研究室）

長野県の神社、諏訪大社では7年に一度、春に「式年造宮御柱祭」が行われる。また、夏から秋にかけては、本社以外の諏訪湖の周辺84箇所に分布する神社において「小宮御柱祭」という、本社同様の祭祀も行われている。各神社の境内4箇所には、御柱が配置され、さらに附属する摂社・末社にも御柱が配置される。金子さんは、その配置の傾向について研究を行った。その結果、摂社・末社の御柱配置には地域ごとに傾向が見られることがわかった。また、神社の規模や御柱配置、祭神の関係性にも傾向があることから、小規模な摂社・末社は、諏訪大社の祭祀に関わる摂社を軸に配置され、招来した摂社・末社に御柱を配し、大規模化して諏訪大社体系の中に統合したことが結論づけられた。

「諏訪出身の私は、小さい頃から諏訪大

社を参詣していました。諏訪大社の建築的な特徴を見出す研究を通して、地元に対する理解を深めたい思いで、研究室に入りました。「式年造宮御柱祭」について調べていくと、諏訪地域に分布する86もの社で「小宮御柱祭」が行われていることがわかりました。けれど、各神社の建築的な特徴に関する史料はほとんどない。そこで、現地調査から神社ごとの傾向を明らかにできるのではないかと考えたことが、このテーマを決めるきっかけになりました。現地調査は本当に大変でした。所在地がわからない神社があったり、山奥までなんとか辿り着いても手入れされていない神社だったり、時には蛇や蜂に出くわし億劫になることも。提出を終えて、ようやく研究のおもしろさに気づいたところです。」



上：摂社・末社に御柱が配置されている実例
下：小宮御柱祭の様子

論文は、自分の興味のある疑問を追求できることに楽しさがある。

汚垂れ軽減を目的とする男性用小便器のデザインに関する研究 - 排尿時におけるアプローチ性、汚垂れ位置、床面と壁面、ターゲットポイントの関係 -

大橋賢一郎くん（建築学科4年・八藤後・中田研究室）

大 橋くんの研究は、男性小便のタレコボシ（汚垂れ）についての研究だ。男性トイレの臭いの原因となる小便器下の汚垂れをアンケート、現地調査、実験から分析し、汚垂れ軽減を目的とした小便器のデザインの検討を行った。「どの位置に立てば汚垂れを軽減できるか」「どの位置に汚垂れが発生しているのか」「床面や壁面は汚垂れに影響するのか」「小便の狙う位置はどこが適正であるのか」という4点から分析し、汚垂れを軽減させるデザインの基礎をつくった。

「建築人間工学の授業で男性トイレについての講義があり、そこからトイレの研究に興味を持ちました。汚垂れの問題は男性なら一度は気になったことがあると思います。私は小便をする度に「なぜ、汚れてしまうのか」「どうすればよいのか」と非常に

に気になっていました。授業の最終レポートも男性の小便と汚垂れについて書きました。それが研究のはじまりです。

トイレ内の小便が対象なので、調査にはとても気を使いました。まず、対象者がトイレに入り小便をしている最中に、ななめ後ろに立ち、小便時の立ち位置を測定します。測定後、対象者に気づかれないように一旦トイレから出て……。対象者がトイレから出た後、汚垂れ発生を確認、汚垂れの位置のプロットを行います。汚垂れは次の対象者に影響が出ないように、きれいにふき取ります。その繰り返しです。調査の途中で、他の使用者が対象便器を使用してしまったり、手に汚垂れが付くこともありましたが、「結果が知りたい！」という強い思いから、約200件のデータを集めることができました。」



汚垂れの測定の様子

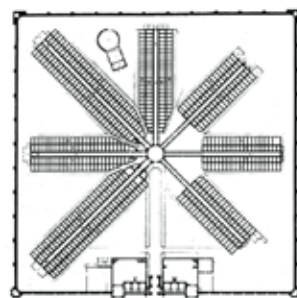
論文は自分で世界を構築し、他人と共有してもらうことに醍醐味がある。

近代日本における監獄建築の配棟計画に関する研究 - 戦前期の配棟規則との相関性を通して -

山井翔太くん（建築学科4年・山中研究室）

世 界各地にはさまざまな刑務所（監獄）がある。この監獄建築の多様性の背景には行刑哲学の変化があると言われているのだそうだ。（法学界では“行刑が監獄を建築する”という。）しかし、監獄には細かな規則や規定がある。それらも時代ごとに変化し、監獄の建築形態も変わってきている。山井くんの研究は、近代日本の監獄を対象として、監獄に関する規則と配棟計画の相関性を読み解き、監獄建築と監獄に関する規則と規定、その背景にある監獄に対する思想の関わりを検証した。結果、同一規則内でもさまざまな監獄の形態が現れることがわかった。これは監獄が処罰（社会からの隔絶）と更生（社会復帰）という矛盾する役割を求められたためである。そのことによって世界中に多様な刑務所（監獄）が生まれていると結論づけた。

「僕の友達が、刑務所にお世話になりかけたことが、最初のきっかけでした。刑務所の長短は、初犯・再犯に関わらず、軽罪・重罪が全て決まることに疑問を持ち、ハード面で何かできることはないかと考えました。刑務所を見学したり、矯正展（受刑者制作の家具などを販売するイベント）にも参加して、徐々に研究へのめりこんでいきました。このような研究対象なので、資料を探そうとどこへ連絡しても渋い顔をされることがほとんど。近代日本の監獄配置図を入手できたときは不可能を可能にしたと思いましたね。刑務所は公共施設としてのポテンシャルが高いものです。常時数百人から数千人規模の人間の生活が行われ、それが地域にもたらす経済効果も大きいとされています。その点からも、建築面からの提案が可能であることがわかりました。」



上：名古屋刑務所の矯正展風景

下：ペンシルヴァニア監獄の平面図

和光市越後山地区における「地域活動」を促す住宅地づくりに関する研究

田中雄一朗くん（建築学科4年生・川島研究室）

「地域活動」が活発な住宅地をつくるためには、どのような整備方策がなされているのか？田中くんの研究では、地域住民同士の近所づきあいに代表される相互相助の関係や、地域のイベントへの参加などの整備方策により、実際に活発な地域活動がみられる越後山地区の住宅地づくりに着目し、ソフト・ハードの両側面から実態調査とヒアリング調査を行い分析・検討した。結果、住宅地の構想を明確にした不動産会社住宅地の整備事業者が、隣地境

界や前面道路との境界をフラットに整備し（ハード整備）、地域住民が集まる機会となるイベント整備を中心に新たに入居する世帯の地域活動促進を補助する整備（ソフト整備）を実施するべきと提言した。

「僕が生活する住宅地には、地域活動がほとんどありません。海外研修旅行でドイツのフライブルクという街を訪れたときに、カフェでゆったりと、路地裏で立ち話を楽しむ住民たちに感動しました。その後、研究室のゼミナールの一環で、越後山地区の

住宅地を視察しました。すると、そこでも子どもたちがのびのびと遊び、親たちが立ち話を楽しむといった地域活動が行われていました。日本でもそのような住宅地が創出されていたことに感銘を受け、これが大きなきっかけとなりました。今回のヒアリングではたくさんの方々にお話をうかがいました。地域住民の方々や住宅地づくりに携わっていた事業者の方々とお話は、実際に住宅地づくりに携わったことのない僕にとって大変興味深いものでした。」



左：住宅地の道路空間で遊ぶ子どもたち 右：越後山地区の代表的なソフト整備である「越後山納涼まつり」の様子

都市再生特別地区における地域貢献施設の実態に関する研究 —東京都を事例として—

渋沢一輝くん、名取達矢くん、森拓斗くん（建築学科4年・都市計画研究室根上ゼミ）

情報化や国際化など、急速な社会変化に対応した都市機能の高度化と都市の居住環境の向上を図るために制定された法律が「都市再生特別措置法」。この法律が2011年に改正され、より国際競争力の強化や民間の参画が促された。都市再生特

別地区においては、地域活性化のためのソフト分野の多様化や質の向上が、都市再生の鍵になると考え、この研究では、特区制度により提案・実現したソフト分野の施設や事業の実態を明らかにし、今後の地域の魅力向上・活性化へ貢献するための制度運

用・活用について考察した。

「このテーマに取り組んだ理由は、都心における再開発に興味があったからです。当時は、東京駅の復原や渋谷ヒカリエなどの駅周辺の再開発事業が話題になっていたもので、こうした再開発による周辺への影響を研究することにも惹かれたのですが、研究のテーマを絞り込む過程で、再開発に関する研究を考えていた大学院の先輩から共同研究の話をいただきました。ヒアリングひとつとってもスケジュール管理からアポ取りに至るまで、大変なことだらけ。それでも研究テーマの先駆性としてやりがいを感じていたからこそ、最後までやり遂げられました。論文を1冊にまとめたときには、1年間の研究を実感することができ、感慨深かったです。」（渋沢）



事例のひとつとして研究対象となった「三菱1号館美術館」

News & Topics

1 | 2012 年度、修士論文・修士設計審査会が行われました

2012 年度の修士論文・修士設計審査会が、2 月 19 日（設計）と 20 日（論文）に行われた。構造系 20 名、環境系 8 名、設計・計画系 46 名（論文 22 名、設計 24 名）の計 74 名が発表を行い、系ごとの審査会により各賞 14 名と、駿建コンペティション業績賞に 1 名が選ばれた。

●斎藤賞

<修士論文>

- ・松本良太（指導／岡田）「HP 曲面を有する張力膜構造の風応答性に関する研究 - レイノルズ数が膜面応答に及ぼす影響について -」
- ・銭 葉ペイ（指導／井上・吉野）「甘肅省南ユグル族自治県における居住環境の実態とバイオヴィレッジ構想 - 中国西部地域における気候と健康に配慮した新型省エネルギー住宅に関する研究 -」

●吉田鉄郎賞

<修士論文>

- ・中村林太郎（指導／重枝）「大徳寺塔頭における小書院造営と方丈及び庫裡の変化に関する - 考察：近世禅宗寺院の塔頭内建物の配置・平面構成の変遷に関する基礎的研究 -」

<修士設計>

- ・柴田俊太郎（指導／佐藤光彦）「明大前駅周辺地区開発計画 - 鉄道高架と共生する都市空間の設計 -」

●駿建賞

<修士論文>

- ・馬淵かなみ（指導／佐藤慎也）「主体的な活動を生み出す場に関する研究 - 地域に開かれた場の「自治」を通して -」
 - ・佐々木嘉里美（指導／横河・山崎）「市民参加型緑化活動が地域に及ぼす効果についての研究 - 東京都特別区の事例調査を基とした被災地域復興への提案 -」
- <修士設計>
- ・村山寛子（指導／佐藤光彦）「宅地細分化に伴う住宅群更新のケーススタディ - 洗足田園都市 小山 7 丁目における住宅地の段階的個別建て替えシステムの提案 -」

造士 航（指導／今村）「尾鷲森林療養施設計画 - 衰退化する林地における森林トレイルと一体化した療養空間の設計 -」

・山田明加（指導／佐藤光彦）「東京都庭園美術館更新計画 - 東京都有形文化財本館と周辺環境を活用した体験型学習施設の提案 -」

●駿構賞

<修士論文>

- ・増井智彰（指導／古橋・秦）「繰返し依存性を考慮した高減衰積層ゴムを用いた免震構造物の応答評価に関する基礎的研究 - 応答性能設計図表による最大応答値の補正方法 -」
- ・押山育未（指導／古橋）「免震建物と耐震建物の連結制震に関する研究 - 最適設計理論の適用性の検証と性能指定型設計法の提案 -」

●奨励賞

<修士論文>

- ・稀代康平（指導／古橋）「中間層免震構造物の逆位相問題に関する研究」
- ・須見勇太（指導／井上・橋本）「昼光照明と室内照明を考慮したオフィス内の視作業エリアの評価法に関する基礎的研究 - 視作業時の「充足感」による視環境評価を通して -」
- ・池田 智（指導／川島）「建物用途・業種の「協議」による歴史的風致の維持に関する研究」

●駿建コンペティション業績賞

- ・本山哲生（指導／横河）



左：CST ホールで行われた発表風景 中：ホール手前のホワイエで行われた修士設計および論文の展示 右：受賞者決定後、カフェテリアで行われた懇親会にて、受賞者たちの記念写真

2 | 2013 年度、人事のお知らせ

★建築学科人事

・4 月 1 日付の人事で、秦一平助教、宮里直也助教、山中新太郎助教が准教授に昇格した。金島正治教授、池田耕一教授が、新たに特任教授として建築学科所属となり、引き続き学生の教育・研究に携わる。

・4 月 1 日付の人事で、横内憲久教授、八藤後猛教授（昇格）、川島和彦教授が、今年度開設されたまちづくり工学科に異動した。山崎誠子准教授（昇格）が短期大学部に異動した。

・4 月 1 日付の人事で、新しく建築学科のメンバーになったのは、長岡篤助教、古澤大輔助教、二瓶士門助手である。

・山本理顕特任教授が 3 月 31 日をもって退職した。

・建築学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉大井裕介（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）、

大藪元宏（建築設計Ⅱ・Ⅲ、設計演習Ⅰ）、小林章二（建築法規Ⅰ）、菅原大輔（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）、長谷川洋平（デザイン基礎、建築設計Ⅰ）、浜島一成（測量及び実習）

〈退任〉川島茂（建築設計Ⅱ・Ⅲ、設計演習Ⅰ）、仲亀清進（建築設計Ⅱ・Ⅲ、設計演習Ⅰ）、古澤大輔（デザイン基礎、建築設計Ⅲ、デザインワークショップⅡ）、森田吉見（測量及び実習）

・建築学専攻の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉西沢大良（建築デザインⅠ、Ⅱ）、榎田吉弘（建築材料特論Ⅱ）、水野吉樹（建築デザインⅡ）

〈退任〉片桐正夫（建築保存修復学特論）、清水五郎（建築材料特論Ⅱ）、関口克明（環境工学特論Ⅲ）、高宮真介（建築設計マネジメント特論、建築デザインⅠ、Ⅱ）、東建男（建築デザインⅡ、建築設計演習）

★短大（建築・生活デザイン学科）人事

・4 月 1 日付の人事で、田所辰之助短大准教授、

羽入敏樹短大准教授が教授に昇格した。また、新しく建築・生活デザイン学科のメンバーになったのは、建築学科より所属替え・昇格した山崎誠子短大准教授である。

・下村幸男短大教授、坂根裕梨短大助手が 3 月 31 日をもって退職した。なお、下村幸男短大教授は、引き続き非常勤講師として「建築数学の基礎演習、建築材料力学Ⅰ、建築基礎実験Ⅰ」の講義を担当する。

・短大建築・生活デザイン学科の非常勤講師の新旧交代は以下の通り（敬称略）。

〈新任〉内村綾乃（建築・生活デザインの基礎、建築デザインスタジオⅠ）、深澤組個（インテリア計画Ⅰ）

〈退任〉上條美枝（建築デザインⅡ、建築デザインⅢ）、神蘭勝彦（建築材料力学Ⅰ）、神谷裕直（デザイン論）、桑原茂（建築メディア演習Ⅰ、建築メディア演習Ⅱ）、薩田英男（建築デザインⅡ、建築デザインⅢ）、鈴木雄司（木構造及び鋼構造）、徳田良英（福祉住環境概論）、和美廣喜（建築施工法）

3 | 2013 年度、新任教員の紹介

【建築学科】

長岡篤(ながおか・あつし)

今年度から、理工学部建築学科に助教として着任することになりました。私は大学院では、都市計画や環境政策に関する研究に取り組み、民間のコンサルタントでは住宅政策や土地政策、マンション再生に関する調査に携わってきました。

都市や建築を取り巻く環境は、日々変化しています。少子高齢化や人口減少、環境問題、地震などの災害に対して、今後どのような都市や建築が求められるのかは、大きな課題です。安全で安心に、快適に過ごせる

【助教】

都市や建築とするためには、多くの制度の創設・改正や技術の発展が必要であるとともに、人々がどのような都市の将来像を求めるのかによっても変わってきます。都市の将来像には無数の考え方があり、答えは一つではありませんが、それだけにやりがいがあります。

私が大学院や民間のコンサルタントで携わってきた調査・研究の経験を踏まえて、皆さんと共に考えていきたいと思います。よろしく願いいたします。



2001 年、日本大学理工学部建築学科卒業。2003 年：日本大学大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程修了。2008 年：東京工業大学大学院総合理工学研究科環境理工学創造専攻博士後期課程修了。2008～2009 年：東京工業大学特別研究員。2009～2013 年：(株)市浦ハウジング&プランニング勤務。

古澤 大輔(ふるさわ・だいすけ) 【助教】

私は大学を出てすぐに事務所を構え、実務の世界に入りました。建築家のアトリエや組織での修行を経験していないため、大学で受けた教育が私の原点、スタンダードポイントとなっています。それゆえ建築教育の重要性について、とても意識的に捉えています。

建築を設計し、都市を構想する知識や技術を教育の現場で学生たちに伝え、実務の世界に送り出す。そして今度は彼らが実務の世界から、大学教育に携わり学生を指導する。こうした知識・技術の継承が人材教育の理想的なサイクルであると考えます。さらにその理

想的な教育のサイクルは、教える側が教えられる側に一方的に伝達するモノログではなく、互いに気づき、感化するダイアログであるべきだと考えています。

今後縮退していく社会において、そして未曾有の震災を経験した 3.11 以降の社会において、建築設計に携わるものたちが英知を集約させ、都市を構想していくことがますます重要になると考えます。そのためにも私は、一人でも多くの学生が建築設計に携われるよう指導にあたっていきたいと考えています。



1976 年、東京都生まれ。2000 年、東京都立大学工学部建築学科卒業。2002 年、同大学大学院修士課程修了、メジロスタジオ一級建築士事務所設立(馬場兼伸、黒川泰孝と共同主宰)。2008 年、明治大学大学院兼任講師。2009 年、首都大学東京非常勤講師。2010～2012 年、日本大学、首都大学東京大学院非常勤講師。2011 年～リライトデベロップメント取締役。2012 年、東京理科大学大学院非常勤講師。

二瓶 士門(にへい・しもん)

この度、建築学科の助手に着任させていただくことになりました二瓶士門です。母校に関われること、嬉しく思います。

私は卒業してから北京の設計事務所、横浜の飯田善彦建築工房を経て、昨年の夏に事務所を設立しました。その途上、快適性や省エネルギーを追求する仕事に携わる機会があり、温熱環境を積極的にコントロールすることで、形に留まらず社会における建築の役割もデザインすることが可能では?という仮説を持つに至りました。そこで、パウ・フィジック。

【助手】

ドイツ語で建築物理という意味をそのまま社名にすることで自分の立場を明らかにし、その視点を軸足に研究や実践を進めていきたいと考えております。

私が卒業した高宮研究室は今でも年に何度か OB 会を開いています。貴重な情報交換の場であり、自分の原点に立ち戻る貴重な機会でもあります。これからは私も一つの起点となり、先輩後輩の隔たりなく人が集まる場所をつくっていけたらと思います。よろしく願いします。



1981 年生まれ。2006 年、日本大学大学院理工学研究科建築学専攻(高宮研究室)修了。2006～2007 年、北京新領域創成都市建築設計諮詢有限责任公司勤務。2007～2012 年、飯田善彦建築工房勤務。2012 年、株式会社パウ・フィジック デザインラボ設立。

【短大】

山崎 誠子(やまざき・まさこ)

今春より理工学部建築学科助教から短期大学部准教授となりました山崎誠子です。専門はランドスケープデザインと環境計画です。

父が建築設計事務所を自営していたこともあり、大学では建築を専攻していましたが、幼いときから花や緑に興味があったことから建築と緑が融合できることはないかと、建築から造園の門をたたきました。

【准教授】

ここ数年「屋上緑化」や「壁面緑化」はスタンダードな言葉になりましたが、庭、公園、外構、緑地、景観とさまざまなプロジェクトを体験し、建築とランドスケープの協働発想が必要だとますます感じています。建築と共に、環境、景観、造園を当たり前のように考えることができるような発想を皆さんと一緒に共有できるようにしたいと考えております。よろしく願いいたします。



1984 年、武蔵工業大学工学部建築学科卒業。1984～1986 年、東京農業大学農学部造園学科聴講生。1986～1991 年、株式会社花匠勤務。1990～2006 年、東京デザイナー学院非常勤講師。1992 年、有限会社 G ヤマザキ設立。1998～2007 年、武蔵工業大学工学部建築学科非常勤講師。2007～2013 年、日本大学理工学部建築学科助教。

News & Topics

4 | 論文掲載、新刊情報

★論文掲載

- ・渡辺大助（建築学専攻 D3/ ミサワホーム総合研究所）、井上勝夫教授連名の「木質系床構造のインピーダンス特性に関する周辺の拘束の影響について」と題する論文が日本建築学会技術報告集、第19巻41号（2013年2月号）に掲載された。
- ・平光厚雄（建築学専攻 D3/ 建築研究所）、井上勝夫教授連名の「乾式二重床構造の断面仕様と端部空気抜きが床衝撃音レベル低減量に与える

影響」と題する論文が日本建築学会環境系論文集、第78巻第684号（2013年2月号）に掲載された。

- ・星和磨短大助手、羽入敏樹短大教授、小山由美（日本大学薬学部助手）連名の論文「カウンターに設置された衝立による遮音効果に関する検討」が、日本建築学会技術報告集、第19巻41号（2013年2月号）に掲載された。
- ・羽入敏樹短大教授、星和磨短大助手、佐藤瑠美（新日本空調／2009年大学院修了）連名の原著

論文「音楽ホールにおける後期上方反射音がもたらす空間印象」が日本音響学会誌 第69巻1号（2013年1月号）に掲載された。

★新刊情報

- ・山崎誠子短大准教授が執筆した「緑のランドスケープデザイン」（オーム社）が2月25日に発行された。

Daisuke Furusawa WORKS



「3331 Arts Chiyoda」：都心の廃校をアートギャラリーを中心とする複合施設へと用途変更を行った再生建築。



「東府中の集合住宅」：郊外の市街地に計画した集合住宅。郊外特有の慣習的な不動産言語を、積極的に設計与件として取り込むことで、強度のある建築表現と、一般的な入居者を受け入れることができる賃貸物件としての柔軟性、双方の両立を行っている。

Shimon Nihei WORKS



「パークハウス吉祥寺 OIKOS」：省エネと快適性を出来る限り実現させた上で、新しいライフスタイルを予感させる集合住宅を提案した。現在も住民と交流、光熱費の収集を継続しており、将来的に公表する予定。



「新小岩の家」：親世代から司法書士を業とする夫婦の家。前面道路の騒音から生活を守りつつ、街へ開くことを同時に実現させた。内側の本棚が構造とライフスタイルのコアとなる。1階のボリュームを小さくすることで大きなオープンスペースをつくり出した。そこでは、いずれ奥さんが古本屋を営む。

Masako Yamazaki WORKS



「3331 Arts Chiyoda 屋上菜園」：企画、計画を行い、研究室で施工、運営補助を行った。



著書「世界で一番やさしい住宅用植栽」（エクスナレッジ社）：住宅の植栽計画について初心者でもわかる手引書。

毎号、一枚の建築写真！

A Photo of World Architecture

vol.04

AA school /Projects Review exhibition



今、この瞬間、世界には、何千人？何万人？の学生たちが、建築を学んでいるのでしょうか？どの学校も、皆それぞれにその国ならではの背景を持ちながら、独自のスクールカラーを武器にさまざまな教育を実践しています。今回取り上げる写真は、イギリスはロンドンにある私立の建築学校「AA スクール」の Projects Review exhibition の風景。アーキグラムの面々やレム・コールハース、ザハ・ハディド、リチャード・ロジャースなど、名だたる建築家たちを輩出し続けている AA スクールでは、毎年、年に一度、各学年がその一年の成果を発表する展覧会を行います。場所は、普段学生たちが学ぶ校舎。教室はもちろん階段室からテラスに至るまで、学校中の空間を利用して、学生たちは自由に表現を行います。そして、この日は世界中で働く OB/OG の卒業生たちも自由にこの場集まります。展覧会を介しながら、世代も立場も国境も越えた繋がりが、こうして生まれ続けるのです。

www.aaschool.ac.uk

Contents

[SPECIAL FEATURE]

02 駿河台から歩いてみよう

08 今を考え未来を創る
みんなの設計 みんなの研究

みんなの設計：駿建賞、奨励賞、AD 賞、企画奨励賞

みんなの研究：（環境系）桜建賞、駿優賞ほか

（構造系）桜建賞ほか

（計画系）桜建賞、駿優賞ほか

（企画系）桜建賞ほか

19 [News & Topics]

2012 年度、修士論文・修士設計審査会が行われました

2013 年度、人事のお知らせ

2013 年度、新任教員の紹介

他

22 [A PHOTO OF WORLD ARCHITECTURE]

vol.04 AA school /Projects Review exhibition

24 [EVENT REVIEW]

mosaki のイベント巡礼 vol.4

「HOUSE VISION 2013 TOKYO EXHIBITION」

SHUNKEN

2013 Apr. Vol.41 No.1

「駿建」

発行日：2013 年 3 月 28 日

発行人：岡田章

編集委員：佐藤慎也・橋本修・川島和彦・田嶋和樹・山崎誠子・田所辰之助・高田康史

編集・アートディレクション：大西正紀 + 田中元子 /mosaki

発行：東京都千代田区神田駿河台 1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室

TEL：03(3259)0724

URL：http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp

※ご意見、ご感想は右記メールアドレスまで<shunken@arch.cst.nihon-u.ac.jp>

event review

mosakiのイベント巡礼 vol.04

HOUSE VISION 2013 TOKYO EXHIBITION

2012年3月2日(土) - 3月24日(日)

場所：お台場・青梅駅前 特設会場

未来の住まいの展示会

♥ 建築家と企業による7組のタッグが、それぞれに未来の住まいを提示する展覧会。こんなのはじめてだから、ワクワクする。でもこの展覧会を牽引するのは、グラフィックデザイナーの原研哉さんなんだよね。建築分野の人には、もうそういう力が、ないのかなあ。

♠ まあそこはどうであれ、こんな展覧会が実現されたことが、素直にうれしいじゃない。建築家と企業のコラボレーションというのも意義深いし、建築家によるさまざまな家の実物大で見られるという機会も、なかなかないもの。

♥ 家とか実物大って言ってもさ、ここに展示されているものって、あくまで家の部分というか、要素なんだよね……この展覧会、誰に向けて開催されているんだろう。建築プロパー以外の人たちかな。だとしたら、この青海の会場までいちいち出かけて、入場料払って見に行こうって思うかなあ。

♠ 確かに、ちょっと抽象的な部分は否めないよね。ウェブや会場でもらえる冊子を見ても、何が言いたいのかハッキリしない。会期中は土日も休まず開催されるトークセッションにもテーマは書かれていなくて、登壇者の名前しかわからない。展覧会に行く動機も展示内容も、良くも悪くも、こちら側に任せられているんだよね。

♥ 展示の中では、蔦谷書店 × 東京 R 不動産の「編集の家」と、未来生活研究所 × 山本理顕、末光弘和、仲俊治の「地域社会圏」が印象的だった。「編集の家」は、現実的な 80㎡のマンションをスケルトンの状態から自分で再編集する構想。そのためにかかる費用やさまざまなツールまで全部明かされているから、すぐく身近かつリアルな感覚で興味を持てたよ。

♠ 「地域社会圏」は会場で唯一、縮尺模型での展示だったね。地域社会圏の考え方を集合住宅にして見せている。予備知識がない人にとっても、さまざまな問題を自分のこととして考えるきっかけになれるような展示だった。「編集の家」も「地域社会圏」もプロモーション的な色が薄いところを見ると、組んだ企業の懐も深かったんじゃないかと思う。

♥ この展覧会、これからどうなるの。

♠ 海外に巡回するという情報もあるけど、国内でも今後継続的に開催されるといいよね。今回出展した建築家のメンツは豪華だけれ

ど、企業と組んで未来の住まいを提示する、住まいへの問題意識や興味を萌芽させる、という意味ではもっとうまい人がいるかも知れない。今回抽象的に感じられた部分や、この展覧会の存在意義も、もっとクリアになっていく可能性があると思うんだ。



上：青梅につくられたハウスヴィジョンの特設会場。会場構成は、建築家の隈研吾によるもの。会場ゲートから各パビリオンへ続く床も側壁も、全て10.5cm断面の角材をできるだけ加工しないで用いている。使用後は別の工場建築に再利用する計画。 下：建築家の山本理顕らによる「地域社会圏」を具現化した1/5模型）。数百人が住める巨大なシェアハウスは、介護や育児など社会の諸問題を、共に住むことで解決するシステムを提案する。

Recommend | 2013年3 - 5月

【1】「カリフォルニア・デザイン 1930-1965 —モダン・リビングの起源—」| 国立新美術館（東京都港区六本木）| 会期：2013年3月20日（水・祝）～6月3日（月）

開放性や鮮烈な色彩などを特徴とした、大胆かつ実験的な独自のデザイン活動が展開された 20 世紀半ばのカリフォルニア。西海岸ならではのアイデアに満ち溢れた家具やファッション、ジュエリー、車など多彩なジャンルから 250 点が展示される。建築ではチャールズ & レイ・イームズ、R・M・シンドラの作品を実見できる。建築家・中村竜治の会場構成も楽しみだ。

【2】「デザインあ展」| 21_21 DESIGN SIGHT(港区赤坂9-7-6) | 2013年2月8日(金)～6月2日(日)

NHK E テレで放送中の教育番組「デザインあ」を、展覧会に発展させた企画展。ディレクションは、番組で総合指導を行う佐藤卓、同番組に関わるウェブデザイナーの中村勇吾、ミュージシャンの小山田圭吾。全身で体感できる展示を通して洞察力や想像力、身体能力を総合した「デザインマインド」を育むための試みに触れることができる。

【3】「東京オリンピック 1964 デザインプロジェクト」| 東京国立近代美術館（東京都千代田区北の丸公園）| 会期：2012年2月13日（水）～5月26日（日）

1964 年に開催された東京オリンピックは、戦後復興を世界的に示すための国家イベントであり、また当時の第一線で活躍するデザイナーたちが総力を挙げて取り組んだ一大デザインプロジェクトでもあった。亀倉雄策、原弘、柳宗理、田中一光といった豪華メンバーの仕事は、当時よりさまざまな技術が発達した現代に見てもなお、その圧倒的な完成度に驚嘆させられる。

【編集後記】

以前、学生の皆さんと座談会をさせていただく機会があったのですが、そのときに駿河台キャンパスで大学生活を送っていても、家と学校をただ往復している学生たちが意外と多いことにビックリしました。なんてもったいないこと！建築学科には確かに塀のあるキャンパスはないのですが、こんなにも都心に拠点を持つ建築系の大学は他にありません。今回は駿河台周辺を取り上げましたが、渋谷や新宿、どの街へもあつという間に行けてしまいます。だから、みんなにとっては、東京そのものがキャンパス！学生生活の間に、エネルギーな東京を是非満喫してください。また、卒設・卒論特集はどうでしたか？あなたの個人的なちょっとした想いが、卒設や卒論のきっかけになるのですね。つくったり考えたりする中で、もし思うように進まなかったら、気晴らしに外を歩いてみましょう。きっと何かよいヒントに出会えるはずです。

(大西正紀 + 田中元子 / mosaki)